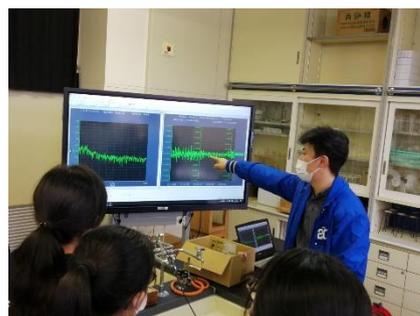


～科学技術の出前授業への支援～

○事例概要

県内の小学校、中学校、高等学校へ、県立大学の教員及び県立試験研究機関の研究員職員並びに企業等の研究者等を派遣し、特別講師として科学技術に関する出前授業を行うことで、児童・生徒の科学技術に対する関心を高め、科学技術教育の振興を図っています。



○事業の取組み内容

令和5年度は、22回の出前科学授業を実施し、計1,352名の児童・生徒が授業を受けました。

《事例①》環境科学センターの研究員による「地球温暖化の防止と適応について」という講義を小学校において実施しました。初めに地球温暖化とはどのようなことかの説明を行い、水の膨張実験を通して、地球温暖化が進行すると海水はどうなるのかについて理解を深め、身近な省エネについてクイズを交えながら学習しました。児童からは、「地球温暖化対策の必要性を感じたため、身近な人に伝えたり、省エネに取り組んだりしたい」という声が聞かれました。

《事例②》県立大学の准教授による「音の不思議な世界 ～音を音で消してみよう～」という講義を中学校において実施しました。実験装置を生徒自らが操作し、音と音を上手く重ねると音が消える様子を体験しました。生徒からは、「初めて知ることや驚きがたくさんあった」、「詳しく音のしくみやいろいろな機械を見られたのでよかった」といった声が聞かれました。

《事例③》薬事総合研究開発センターの研究員による「薬用植物について」という講義を高等学校において実施しました。身近な漢方薬である葛根湯に使われている薬用植物の紹介と、実物の生薬の成分分類、またオリジナル七味唐辛子作りを行いました。講義を受けた生徒からは、「薬用植物に興味が出てきて、もっと知りたい」という声が聞かれました。

《事例④》農林水産総合技術センター食品研究所の研究員による「バイオテクノロジーの食品への応用」についての講義を高等学校において実施しました。DNAとRNAの基本的な説明ののち、ゲノム編集食品の例をあげ、身近なところにバイオテクノロジーの技術が生かされていることなどを講義しました。生徒からは、「バイオテクノロジーを身近に感じる事ができ、研究者の仕事にも興味があった」という声が聞かれました。